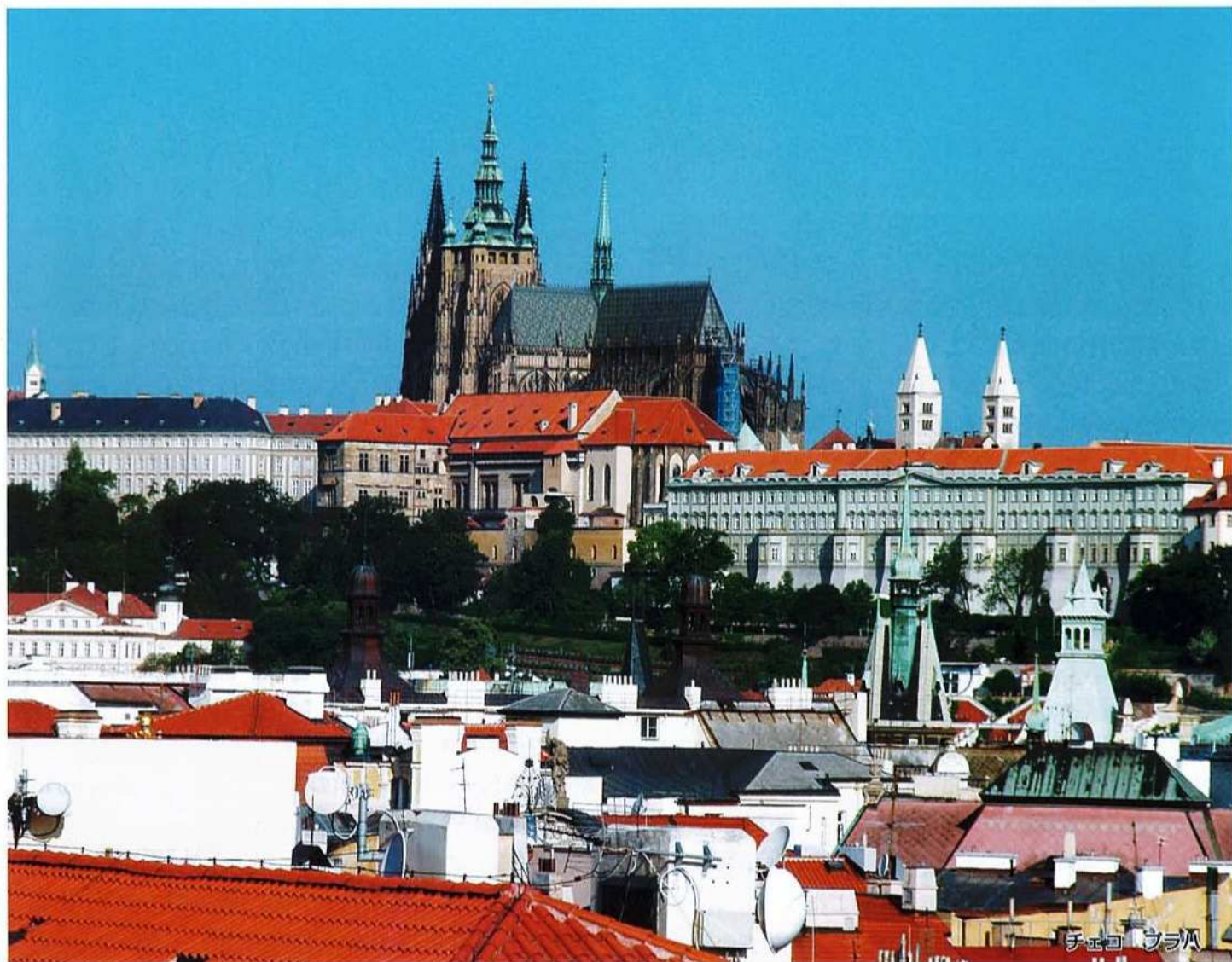


セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE SUMMER

ルカ新聞

No.13
2006.7.柘ざ
榴くろ

イエスは弟子たちに言われた。「だから言っておく。命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようかと思わずに悩むな。命は食べ物より大切であり、体は衣服より大切だ。カラスのことを考えよ。種もまかず刈り取りもしない。だが神様はカラスを養ってくれる。あなた方は鳥よりもこれほど価値のあることか。野原の花がどのように育つのか考えて見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし言っておく。栄華を極めたソロモンでさえこの花のひとつほどもにも着飾っていない。今日は野にあって明日は炉に投げ込まれる草でさえ神様はこのように装ってくださる。ましてあなた方にはなおさらのことである。信仰の薄いものたちよ。あなた方も何を食べようか、何を着ようかと思わず悩むな。あなた方の父はこれらのものがあなた方に必要なことをご存知である。ただ神の国を求めなさい。そうすればこれらの物は与えられる。小さな群れよ、恐れるな。あなた方の父は喜んで神の国を下される。

ルカによる福音書…12章22節-33節

私たちは空の鳥、野の花よりも価値のあるものです。神様はじっと見ていてくださいます。そして何が必要か、すでにわかっています。さす。私たちはあれこれと思わず悩まがちです。しかしこの言葉のようにすべてを神様にお任せし、心静かに神の国を待ち望みましょう。きつと鳥や花以上の恵みを与えてくださるでしょう。





今日の生殖医療では

院長 宇津宮 隆史

セント・ルカ産婦人科では毎週火曜日は手術も外来診察もせず、4～5時間の全体会議を開いています。それは患者さんが一人でもまた一日も早く赤ちゃんが授かるためのさまざまな方面からの働きかけを討議する時間です。ラボ、受付、ナース、情報処理など各部門からの報告と協議内容が毎週ぎっしりあります。この会議は開院以来欠かさず行っています。その中で得られた成果のひとつが2004年の不妊治療の公的助成金制度の実現でした。この運動には経費が数百万円かかりましたが、昨年度だけで患者さんが当院を通して申請された額は4,900万円に上りました。また、昨年の成果はISO9001認証の取得とJISART:RTAC審査の合格でした。これらのことは、当院の財政、労力から見れば支出ばかり、苦勞ばかりですが、その作業の中で当院の診療の質の向上が実現できるのです。ただ狭い範囲の不妊治療のみを行うのではなく、患者さんの社会的、経済的、心理的、そして周りの医療分野との連携を視野に入れて考え、行動すること、これらが重要と思っています。さて、それらのうち、不妊治療の保険適用運動を署名運動中心に、開院以来行ってきた、現大分市長釘宮盤先生のご指導の下に国会請願を行ってきました。その結果は公的助成制度の確立で半分実現できましたが、それ以上はなかなか進みません。それは患者さんが動かないからです。私たちが運動をしても厚生労働省の役人や国会議員は「医師会の連中が何か要求している」くらいにしか思いません。しかし患者さんが運動すれば役人たちは驚きます。あの薬害エイズの患者さんたちが自分でマスコミに向かって訴えたように。また、ハンセン病の患者さんのように。そこで今回の国会請願で私はこの運動を終わりにします。そして今後は患者さんが主体的にこの運動をリードしていただきます。そのための組織作りをお手伝いします。幸いにも東京には「Fineの会」という患者さんの会があります。

この方々は現在不妊治療を行っている患者さんたちです。自分たちで保険適用を実現しようと運動しています。またそのほかさまざまな活動を精力的に行っています。ぜひこの会に参加して皆様も活動してください。

というのは私にはほかにもすることがあるからです。今、白血病の患者さんの中に未婚の方々がいます。その方々が骨髄移植と化学療法、放射線療法をすると自分の卵巣も障害を受け、将来赤ちゃんが産めなくなります。そこでその治療をする前に卵子を採取し、凍結保存し、将来結婚して赤ちゃんがほしくなったらその卵子を用いて自分自身の赤ちゃんを授かるという運動を行っています。これには、体外受精の手技を用いますが、体外受精は結婚している場合のみに認められていますし、また、そのプロジェクトには白血病の主治医と生殖医療担当者と心理的サポートをするカウンセラー、コーディネーターなどとの連携作業になります。またその期間も治療前から結婚、準備まで10～20年の長い期間となります。そこで私たちは、まず、日本産婦人科学会の倫理委員会にこの計画の倫理的審査を行っていただき（2006年3月28日）認可を得ました。次に全国の体外受精を行う施設で上位の成績を上げている施設に協力を依頼し、かつ、白血病主治医との密な連絡を取る環境を作り、また、白血病の患者さんたちと意見交換をし、理想的なシステムを作ろうと計画しました。全国で毎年500名の白血病患者さんがこのプログラムの対象になるはずですが、この方たちは今までは白血病の治療をすれば赤ちゃんが望めなくなったかたがたですが、この計画により、望みが出たと喜んでくれています。私たちの生殖医療の技術は単に今ある患者さんのためだけでなく、将来の患者さんに対しても役に立つことができるようになりました。多くの部門とのチーム・ワークによって実現できたのです。まだまだこの分野にはやるべきことがたくさんあります。

ESHRE 2006 (ヨーロッパ不妊学会)

2006年6月18日～ チェコの首都プラハにて開催

2006年6月18日からチェコの首都プラハで開催されたESHRE 2006に参加させていただきました。

プラハ城やモルダウ川に架かるカレル橋等歴史ある街並みを散策できました。学会ではヨーロッパ各国の研究についてポスターを見たり講演を聴くことができ、海外でどのような研究がなされているかとても勉強になりました。



ESHRE2006 会場前にて



プラハの街並み

セント・ルカ ミニセミナー開催

2006年2月19日、当院多目的ホールにて、セント・ルカミニセミナーが開催されました。

今回は、現在東北大学大学院医学系研究科COEフェロー助教授 有馬隆博先生の紹介で、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科講師 尾畑やよい先生、東北大学医学部産婦人科周産母子センター助教授 寺田幸弘先生においでいただき、興味ある講演をしていただきました。

単為発生マウス《かぐや》が誕生した研究チームで活躍されている尾畑先生には、今回は「卵子のゲノムインプリンティング」という演題で、卵子形成過程でのゲノムインプリンティングの確立と、卵子のゲノムインプリンティングが哺乳類の胚発生をどのように制御していくかについて詳しく説明していただきました。

東北大学で生殖医学、生殖補助技術の細胞分子学的検討を専門にしておられる寺田先生は、「精子受精能 ヒト受精における精子中心体の機能発現、その異常と治療の可能性」という演題でたくさんのスライド(精子蛍光染色写真)を示していただき、精子の中心体機能による雌性前核を引き寄せせる現象等からみても、精子は雌雄ゲノム融合による受精を成立させるのに重要な雄性遺伝情報を卵子に導入する機能的な運び屋であることを教えていただきました。

今回のミニセミナーで、卵子・精子の新たな知識を得ることができ、ラボスタッフ始め、院外から参加していただいた先生方とも充実した時間を共有することができました。



セミナーの様子



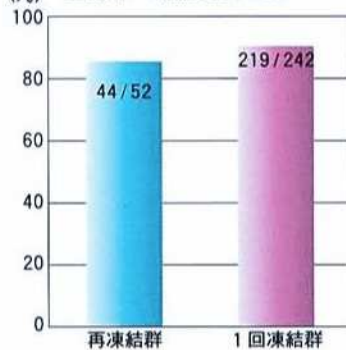
有馬先生 尾畑先生 寺田先生 院長

研究室だより

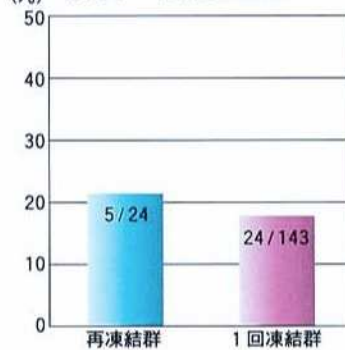
再凍結胚移植の有効性に関する検討

研究室 熊迫 陽子

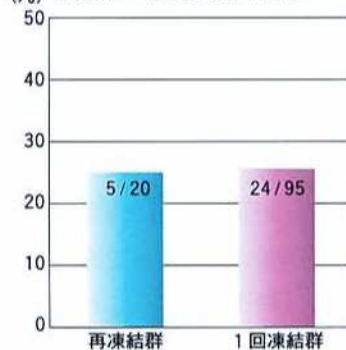
(%) 生存率：融解胚あたり



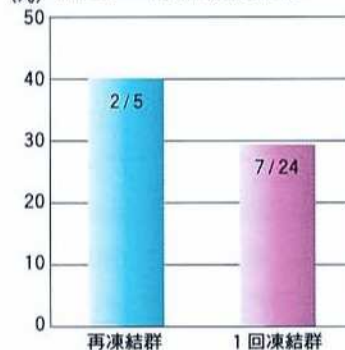
(%) 着床率：移植胚あたり



(%) 妊娠率：移植周期あたり



(%) 流産率：妊娠周期あたり



体外受精-胚移植で、移植しなかった受精卵は、患者さんの希望により2～4日追加培養した後、形態の良好な胚盤胞に発育した場合、凍結を行ないます。

同様に、前核期(1日目)の凍結胚を融解し、2～3日目胚移植を行なった場合にも、患者さんの希望により追加培養し再凍結(2回凍結)を行うことがあります。

1回凍結と2回凍結の成績を比較すると、融解後の生存率は両者に差は無く、また移植胚あたりの着床率も差はありませんでした。胚移植した患者さんあたりの妊娠率も差はみられず、流産率はやや再凍結に高い傾向がみられましたが、有意差は認められませんでした。

(2006年5月 哺乳動物卵子学会)

ゲノムインプリンティングってなあに？

精子形成過程を通過したゲノム(遺伝子)と卵子形成過程を通過したゲノム(遺伝子)がそれぞれ異なる修飾(インプリント)を受け、その結果、受精後の胚発生過程において父母特異的などちらか一方の親由来の遺伝子発現がもたらされることです。

このようなインプリント遺伝子の基礎的研究は、ART(生殖補助医療)の安全性を判定するのに重要であり、原因不明の習慣流産の解明や、再生医療の確立に応用されるものとして注目されつつあります。

当院でも、6月にチェコで開催されたヨーロッパ生殖医学会で「ヒト未熟卵子のインプリント獲得時期」についてポスター発表をさせていただきました。

こんにちは！

わたしは、単為発生マウスの「かくや」です。

産みの親は、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科動物発生工学研究室教授 河野友宏先生の研究チームの方たちです。もともと、哺乳類は単為/雌性生殖で発生することはありませんが、それは、ゲノムインプリンティング機構が働いたためだと考えられています。わたしは、その働きを受けるインプリント遺伝子を何度も改変することによって、0.4%の確率で生まれてきました。わたしの発生能の研究で精子、卵子の遺伝子が子の発生に対してどのように機能しているか調べられました。

★かくや★



(インターネットより引用)

看護部だより

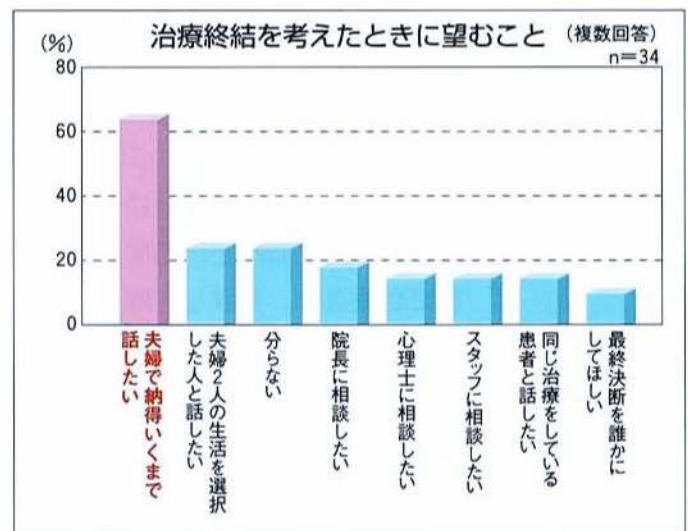
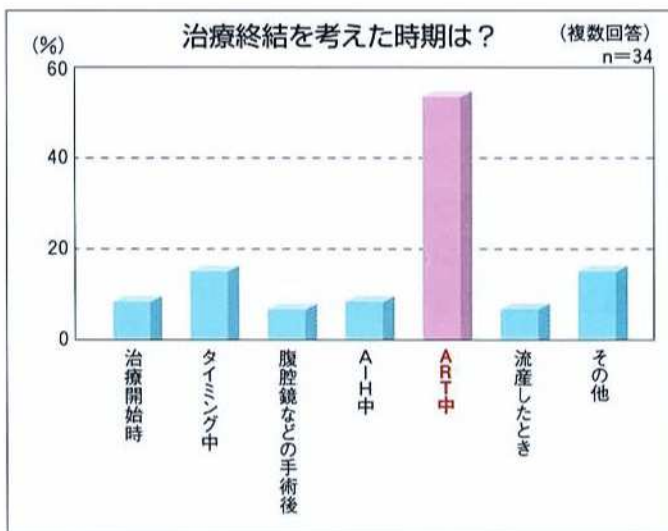
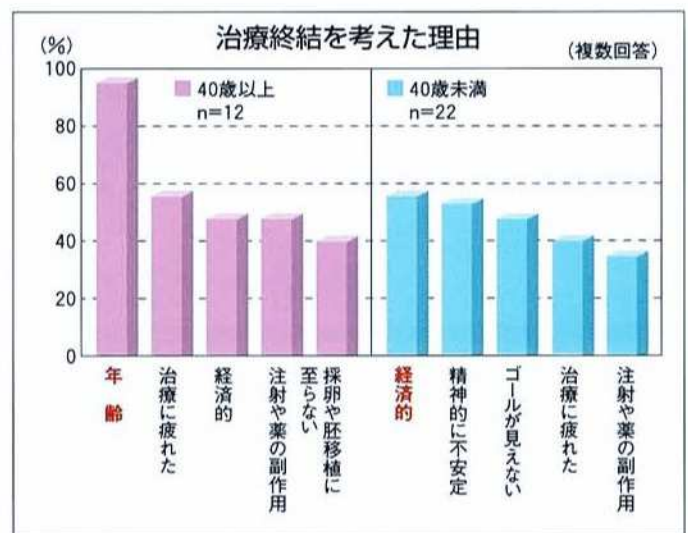
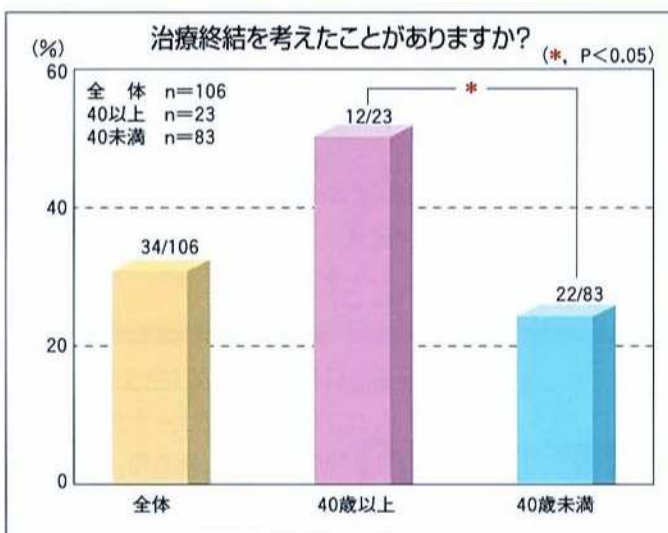
不妊治療終結に関する患者の意識調査

看護部 門屋 英子

不妊治療が進歩したことによって、患者さんの治療終結の決断の悩みは、より深刻になってきています。治療終結を考える時期やそのときに患者さんが望んでいることを知り、今後のサポートのあり方を検討するため質問紙調査を行ったので、報告します。

★期間2005年7月1日～2005年10月30日

* ARTとは生殖補助医療、AIHとは人工授精と省します。



治療終結を考えたことのある患者さんは「40歳以上」、また「ART中」に最も多くみられ、また理由には「年齢」「経済的」といった内容が挙げられました。

年齢や治療内容が進むにつれ、妊娠の可能性の限界や最終治療方法を用いているという状況から治療終結を考える傾向にあると考えられました。治療終結を考えた時に望んだ内容から夫の存在は大きく、治療を進めていく上で重要なキーマンであることが窺えました。情報提供やインフォームドコンセントは夫婦ともに行い、治療観の一致をはかり不妊治療とは共同課題であるという意識を基盤とした系統的サポートの必要性を感じました。この結果を重要視し、今後のサポートに役立てたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

新しい先生の
紹介です!

河邊 史子先生です。
かわべ ふみこ



〈経 歴〉

- ★ 平成5年
鹿児島大学医学部卒業
- ★ 平成5年4月～平成8年3月
北九州市健和会大手町病院で救急医療と内科・産婦人科を研修
- ★ 平成8年4月～平成12年3月
現・大分大学医学部産婦人科に勤務
- ★ 平成12年4月～
アンジェリッククリニック浦田勤務

〈患者さんにひと言〉

治療中には身体的にも精神的にも辛いことが多いと思います。
少しでも皆さんの力になればと思います。

心理相談室より

心理士 上野桂子

どうぞお気軽にご相談ください。

カウンセリング?

私の悩みなんてたいしたことない、何を話せばいいかわからない、
こんなことで悩んでいるなんて恥ずかしい、自分の弱みは見せたくない、
別に必要ない、相談して解決するとは思えない、なんとなくいやだ、
知らない人と話すのは苦手、…などなど。

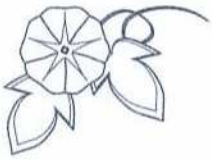
自分でも気づかない内に、ストレスが溜まっていることがあるかもしれませんね

あまり難しく考えないで、治療のこと、夫婦のこと、人間関係
など少し気になることでも、一度話に来てみませんか?
大きな悩みになる前に小さな芽を摘むことができるかもしれません

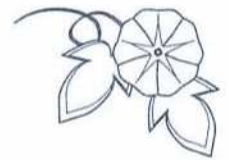
相談してみてもいいなと思う方は、看護師、受付スタッフに声をかけてください

心理士相談 …… 火、金、土曜日 (予約制)	看護師又は受付に 申し出て下さい。
何でも相談 …… 随時、主に土曜日 午後 (予約制)	
院長相談 …… 月、水、金 夕方 (予約制)	
外来相談 …… 随時、外来の相談係り	





受付だより



第4回 JISARTシンポジウムに参加して



6月4日東京にてJISART(日本生殖補助医療標準化機関)が、「生殖医療におけるリスクマネジメント」と題して、シンポジウム及び総会を行ないました。

当日は、東京海上日動メディカルサービス・山内桂子先生の「医療事故防止とコミュニケーション、チームで安全な生殖医療を提供するために」の講演後、全国の施設よりラボ、ナース、受付のパネリストが参加し「当院でのヒヤリ・ハットと医療事故防止のための対応および工夫」をテーマに各施設の院内における現状を報告しました。

その後、会場内での質疑応答を行い、会は進行されました。当院は、受付の5年前よりのヒヤリハット報告書の分析をし、パネリストとして参加しました。どの部門の発表も興味深く、今後に役立てていきたいと思ひます。

(受付・渡邊)

NEW 職員紹介



看護部 桑野 紀子

4月に就職したばかりの新人です。分からないことばかりですが、患者さんと一緒に勉強しながら早く一人前になれるようがんばります。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。



看護部 後藤 裕子

産婦人科は、これまでに経験した事がない分野なので、新たに知識を習得し頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



研究室 佐藤 久子

胚培養士の資格を取得出来るように勉強と研究を頑張ります。



2006年 前期を振り返って

<p>01.10 新年会(セント・ルカ多目的ホール)</p> <p>01.12 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>01.14 第105回 体外受精教室 参加者47名 参加(平井、足立直、恵良、斉高)</p> <p>01.14 第27回 ガーネットサークル OG 1名、参加者4名</p> <p>01.16 広島大学大学院生物科学研究所(広島)助手 島田昌之先生ご来院・ご指導</p> <p>01.20 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>01.21 第25回 「赤ちゃん～今ならきつと授かる～」講座(大分・トキハ会館)参加者70名 講師(柴田(副院長)、上野(心理士)、院長) 参加(工藤由、渡邊、大津、酒井、河野、江藤、篠田、原井、指山)</p> <p>01.22 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>01.23 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>01.24 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>01.25 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>01.27 第4回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座(東京) 参加(上野)</p> <p>01.27 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>01.30 金沢医科大学(石川)藤井亮太先生施設見学のためご来院</p> <p>01.30 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>01.01 日本産科婦人科学会倫理委員会において、当院より申請した研究テーマ：「ヒト未成熟卵卵におけるゲノムインプリント獲得についての解析」が認可される</p>	<p>02.02 金沢医科大学(石川)田中勝彦先生研究のためご来院</p> <p>02.03 遺伝カウンセリング・コーディネーターユニット合同イントロダクトリーセミナー(京都) 参加(城戸、大津)</p> <p>02.04 第106回 体外受精教室 参加者37名 参加(斉高、関)</p> <p>02.04 第8回 第3期オリブの会 参加者3名</p> <p>02.08 東北大学先進工学研究機構(山形)阿部宏之先生、横尾正樹先生研究のためご来院</p> <p>02.09 ISO委員会 日本LCA 田中繁亮氏ご来院</p> <p>02.10 鹿児島大学大学院(福岡) 山口美和さん見学のためご来院</p> <p>02.13 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>02.14 第84回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>02.18 第13回 新患教室 参加者58名 参加(那須、大津、河野、篠田、柴田)</p> <p>02.19 第4回 セント・ルカミニセミナー 講師 尾畑 やよい先生(東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科講師)「卵子の核のミトコンドリアンテンドウ」 講師 寺田 幸弘先生(東北大学医学部産婦人科周産母子センター助教授)「精子の受精能ヒト受精における精子中心体の機能発現、その異常と治療の可能性」</p> <p>02.22 第13回 遺伝子診療ボードレスカンファレンス 参加(佐藤晶、城戸、大津)</p> <p>02.23 ISO9001内部監査</p> <p>02.25 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加(院長)</p> <p>02.25 第8回 日本女性心身医学会研究会(東京) 参加(原井、指山、院長)</p> <p>02.28 第89回 大分周産期研究会 参加(平松、工藤由、足立小、梅田、越名、渡邊、佐藤晶、熊迫、大津、酒井、二宮、松元、篠田、恵良、越光、斉高、原井、柴田、指山、上野、院長) 発表：「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査～男性因子の夫を持つ妻の気持ちについて～」(赤嶺佳枝)</p>	<p>04.11 第86回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>04.14 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座(大阪) 竹田恵子さん 「生殖技術提供者の生殖技術利用限界に対する意識調査」インタビュー調査(5名)のためご来院</p> <p>04.15 第108回 体外受精教室 参加者58名 参加(佐藤久、森野、後藤裕、足立直、斉高)</p> <p>04.15 衆議院議員 足立信也代議士ご来院。体外受精教室にて保険適用に向けてのお話</p> <p>04.15 第1回 第4期オリブの会 参加者8名 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座(大阪) 竹田恵子さん 「生殖技術提供者の生殖技術利用限界に対する意識調査」インタビュー調査(2名)のためご来院</p> <p>04.17 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座(大阪) 竹田恵子さん 「生殖技術提供者の生殖技術利用限界に対する意識調査」インタビュー調査(4名)のためご来院</p> <p>04.22 第9回 第3期オリブの会 参加者5名</p> <p>04.22 東北大学大学院医学系研究科(宮城) 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>04.24 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座(大阪) 竹田恵子さん 「生殖技術提供者の生殖技術利用限界に対する意識調査」インタビュー調査(6名)のためご来院</p> <p>04.27 ISO9001 日本LCA 田中繁亮氏ご来院</p>	<p>05.07 第15回 新患教室 参加者59名 参加(佐藤久、平井、森野、後藤裕、三重野、篠田、指山)</p> <p>05.08 ヒト胎盤幹細胞樹立のための基礎実験(東京) 参加(佐藤晶)</p> <p>05.09 第87回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>05.13 第28回 ガーネットサークル OG 1名、参加者5名</p> <p>05.19 情報漏洩問題対策セミナー(福岡) 参加(工藤由)</p> <p>05.20 第109回 体外受精教室 参加者38名 参加(佐藤久、森野、後藤裕、酒井、足立直、斉高)</p> <p>05.20 第2回 第4期オリブの会 参加者8名</p> <p>05.22 ヒト胎盤幹細胞樹立のための基礎実験(東京) 参加(佐藤晶)</p> <p>05.24 第2回 セント・ルカ産婦人科・倫理委員会 倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学教授)、大塚三千代先生(大分大学医学部附属病院看護部長)、緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院院長)、指山美千代(セント・ルカ産婦人科看護部長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会牧師)(あいいうお願)</p> <p>05.25 越田クリニック(大阪) Sarah Base 導入(工藤由)</p> <p>05.27 第47回 哺乳動物卵子学会(東京) 参加(院長) 発表：「ヒトIVMにおける排卵時未成熟卵中ホルモン濃度と卵子発生能との関係」(佐藤千賀子) 「再凍結胚移植の有効性に関する検討」(熊迫陽子) 「体外受精と精子DNA損傷率についての検討」(長木美幸)</p> <p>05.28 第11回 FROM 総会(東京) 参加(院長)</p> <p>05.28 13th International Conference on Prenatal Diagnosis and Therapy (京都) 発表：「Aberrant DNA methylation of imprinted loci in superovulated oocytes」(佐藤晶子) 「Spontaneous abortion following assisted reproductive technology treatment」(城戸京子) 「A METHOD OF BIOPSY TO OBTAIN MORE PRECISE RESULT FOR PREIMPLANTATION GENETIC DIAGNOSIS」(大津英子)</p>
<p>03.01 防火講演会 参加(越名、斉高、原井)</p> <p>03.02 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>03.04 第4回 日研セミナー/第10回 日研シンポジウム(福岡) 参加(平井、熊迫) 講演：「安全なARTをめざして～凍結胚移植を中心に」(院長)</p> <p>03.07 ISO9001マネジメントレビュー 日本LCA 田中繁亮氏ご来院</p> <p>03.07 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>03.11 第14回 新患教室 参加者28名 参加(長木、篠田、柴田)</p> <p>03.12 JISART 審査 参加(神戸) 参加(院長)</p> <p>03.14 第85回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>03.18 第107回 体外受精教室 参加者51名 参加(足立直、斉高)</p> <p>03.18 九州大学生体防衛医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導</p> <p>03.20 臨床心理士資格認定(上野桂子)</p> <p>03.22 メディカルキューブ平井外科産婦人科(福岡) 廣野和哉さん研修のためご来院</p> <p>03.26 第3回 日本生殖医療標準化機関(JISART)シンポジウム(山形) 阿部宏之先生研究のためご来院 参加(足立小、渡邊、那須、原井、指山、院長) プース展示(工藤由) シンポジウム：「自己決定におけるコーディネーティングからカウンセリングへ～心理士の立場から～」(上野桂子) 発表：「治療最終期への意思決定に対する患者の心理～治療最終期に関する質問紙調査から～」(門屋英子) 「男性患者の不妊治療における意識調査～初診時、腹腔鏡検査(ラパロ)付き添い時、体外受精(IVF)施行時を比較して～」(恵良和絵) 「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査～男性因子の夫を持つ妻の気持ちについて～」(赤嶺佳枝) 「40歳以上の不妊症患者を対象としたサポート・グループの取り組み」(上野桂子 優秀ポスター賞受賞演題)</p> <p>03.26 生殖心理カウンセラー認定資格取得 登録番号001号(上野桂子)</p> <p>03.27 東北大学先進工学研究機構(山形) 阿部宏之先生研究のためご来院</p>	<p>06.03 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加(院長)</p> <p>06.04 第4回 JISART シンポジウム(東京) 参加(足立小、門屋、院長) Discussion: 当院でのキャリアハットと医療事故防止のための対応および工夫 パネリスト：「当院受付における「リスクマネジメント」報告」(渡邊佳枝)</p> <p>06.07 ISO9001 日本LCA 田中繁亮氏ご来院</p> <p>06.08 東北大学先進工学研究機構(山形) 阿部宏之先生研究のためご来院</p> <p>06.10 第16回 新患教室 参加者50名 参加(佐藤久、森野、後藤裕、河野、篠田、指山)</p> <p>06.12 第4回 国会講演終了</p> <p>06.13 第88回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>06.17 第10回 第3期オリブの会参加者3名</p> <p>06.18 The 22nd Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology (Prague) 参加(佐藤晶、恵良) 発表：「Aberrant DNA methylation of imprinted loci in superovulated oocytes」(院長)</p> <p>06.21 東北大学先進工学研究機構(山形) 阿部宏之先生研究のためご来院</p> <p>06.27 第90回 大分周産期研究会 参加(平松、工藤由、足立小、梅田、渡邊、佐藤久、那須、佐藤晶、佐藤千、城戸、平井、森野、後藤裕、酒井、工藤美、恵良、越光、二宮、篠田、松元、足立直、上野、指山) 発表：「当院の不妊治療の現状」(院長) 「当院の不妊治療によって生まれた児について」(院長)</p> <p>06.28 日本産科婦人科学会 倫理委員会(東京) 参加(院長) 申請内容：「複数施設における悪性腫瘍未妊女性患者における卵子採取、ならびに凍結保存の臨床的検証」(A-PART 日本支部より申請)</p>	<p>著書 院長 「ART治療の経済的負担と公的支援」『COMETIC ART マニュアル』(永井書店) 「胚の凍結保存法」『産婦人科産科』(医学書院)(掲載予定) 「高齢不妊女性治療の工夫～私はこのようにして成功率向上をめざしている～」 「産婦人科産科」(医学書院)(60巻11号掲載予定) (上野桂子) 「生殖心理のグループカウンセリング」・「加齢患者に対するカウンセリング」 「COMETIC ART マニュアル」(永井書店) (公文麻美) 「胚盤胞培養」『COMETIC ART マニュアル』(永井書店) (大津英子) 「着床前診断の有用性」『産婦人科の世界』(Vol.58, No.6 June 2006)</p> <p>論文 院長 「Developmentally retarded frozen blastocysts can be rescued by synchronizing culture prior to transfer」Reprod. Bio. Med. (Vol.12, No.5 May 2006) (上野桂子) 「不妊症患者の心理的ストレスとサポートグループ介入の効果」臨床心理学(投稿中) (長木美幸) 「ウレアプラスマ感染が生殖補助医療に及ぼす影響」(2007年3月掲載予定) (佐藤晶子) 「Aberrant DNA methylation of imprinted loci in superovulated oocytes」Human Reproduction (投稿中) (佐藤千賀子) 「Assessment of human oocytes quality by cumulus cell morphology and circulating hormone profile」RBM Online (投稿中)</p>	

妊娠報告件数

(2005.12.1～2006.5.31)

体外受精、顕微授精等

74件

*

その他(体外受精以外)

101件

計 175件

編集後記

イギリスのケンブリッジにあるボーン・ホールクリニックに行くことができました。クリニックを目にしたときは、「ここが、初めて体外受精で赤ちゃんが生まれた場所なんだ!」と感激しました。そして緑の多い、広い敷地内は、ガーデニングもきれいにされていて、ここに通う患者さんたちの心を落ち着かせているのだらうと思いました。また、プリンスデン先生と充実した時間を過ごすことができ、よい経験になりました。(A.S)



ボーン・ホールクリニックにて